

令和2年度龍ヶ崎市民遺産認定候補 概要書

名称	関東鉄道竜ヶ崎線
員数	1
所有者	土浦市真鍋1-10-8 関東鉄道株式会社
所在地	龍ヶ崎市3903-1（関東鉄道竜ヶ崎駅）
時代	創業 明治33年（1900）～
形状等概要	総延長：4.5km（竜ヶ崎駅～佐貫駅間）

1 竜ヶ崎線の歴史

明治28年 (1895)	<ul style="list-style-type: none"> ●北相馬郡高須村（現・取手市）で酒造業を営み、衆議院議員も務めた倉嶋松男が「龍崎馬車鉄道」の敷設を国に申請（10/26） … 既設の停車場（＝駅）に私鉄を接続して地域の産業と結び付けた旅客・貨物輸送事業を行おうと、この時期多くの企業家が国に鉄道敷設出願を行う
明治29年 (1896)	<ul style="list-style-type: none"> ●日本鉄道株式会社土浦線（現・JR常磐線）のうち、土浦～田端間が開通（12/25）
明治30年 (1897)	<ul style="list-style-type: none"> ●藤代～竜ヶ崎間の馬車鉄道敷設が認可される（6/22） ●内務省・農商務省宛てに「龍崎馬車鉄道株式会社」創立申請
明治31年 (1898)	<ul style="list-style-type: none"> ●「龍崎馬車鉄道株式会社」発足（社長：倉嶋松男） <li style="text-align: center;">↓ 間もなく、馬車軌道を小型蒸気機関車による軽便鉄道に改め、路線も土浦線への最短コースとするために当初の「藤代～竜ヶ崎間」から「佐貫～竜ヶ崎間」へと計画変更（＝馬の管理の難しさ、小貝川への架橋経費、輸送力などを勘案した結果） <li style="text-align: center;">↓ ●「龍崎鉄道株式会社」の発起認可申請（11/28）
明治32年 (1899)	<ul style="list-style-type: none"> ●倉嶋松男が取締役社長を辞任し、卸売業・竜崎銀行取締役・県会議員等で活躍していた岡田竜三郎が就任（1/10） ●鉄道敷設免許、並びに社名・定款変更の認可を得て「龍崎鉄道株式会社」発足（4/5） ●竜ヶ崎～佐貫間の敷設工事着工
明治33年 (1900)	<ul style="list-style-type: none"> ●開業免許状取得（8/11） ●竜ヶ崎～佐貫間開通、営業開始（8/14） ●日本鉄道土浦線の佐貫駅、同時開設
明治34年 (1901)	<ul style="list-style-type: none"> ●南中島駅と門倉駅との間に「入地」駅、開設（1/1） ●事業の増収を図り、竜ヶ崎から稲敷郡柴崎村伊佐津（現・稲敷市）まで約14kmの路線延長計画を申請（12/2）
明治35年 (1902)	<ul style="list-style-type: none"> ●竜ヶ崎～伊佐津間延長敷設の仮免許取得（10/29） <li style="text-align: center;">↓ 日露戦争（明治37年/1904）勃発に伴う増税、凶作、小貝川決壊による洪水被害などで資本調達が困難になり、挫折を余儀なくされる
明治44年 (1911)	<ul style="list-style-type: none"> ●常総軽便鉄道株式会社の発起人・竹内綱ら、常総線敷設申請（7/25） … 路線：下館～水海道経由～取手（52.3km） ●在京茨城県人の平井万太郎・森隆介の発起で下館～水海道経由～佐貫コースの計画を出願

	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>下館～水海道の区間が被り，政府認可上の問題となるため，幹旋人を立てて妥協案も検討されたが折り合わず，不成立に</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>●龍崎鉄道の新社長・高松四朗兵衛，常総線出願に関する陳情書を政府に提出（9/3） … 佐貫への接続を要望し，その後の展望として江戸崎～阿波～牛堀～潮来～麻生～銚田～磯浜～水戸への路線延長について記述</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>佐貫接続案側が出願を取り下げる形で争いが決着し，常総軽便鉄道が下館～取手間路線の免許取得（11/1）</p>
大正4年 (1915)	●起動幅員を従来の2フィート6インチ（=762mm）から3フィート6インチ（1,067mm）へと拡幅
昭和2年 (1927)	●龍崎鉄道，定款に自動車業経営を追加（7/29） ●ガソリン動力車と蒸気動力車との併用認可（9/13） ●竜ヶ崎駅～大徳戸張間の乗合自動車の認可を受け，営業開始（10/18）
昭和19年 (1944)	●戦時企業統合政策により，鹿島参宮鉄道株式会社に龍崎鉄道の事業を譲渡する旨，認可（3/17） ●龍崎鉄道株式会社，解散（6/27）
昭和32年 (1957)	●竜ヶ崎線の「門倉」駅（＝竜ヶ崎～入地の間），および「南中島」駅（＝入地～佐貫の間）の廃止認可（4/26） … 以降，「竜ヶ崎」「入地」「佐貫」の3駅制となる
昭和40年 (1965)	●鹿島参宮鉄道株式会社と常総筑波鉄道株式会社が対等合併し，社名を関東鉄道株式会社に変更（6/1） ●竜ヶ崎線にディーゼル機関車導入
昭和43年 (1968)	●竜ヶ崎線の5号機関車廃車，蒸気機関車の運行終了（10/31）
昭和46年 (1971)	●竜ヶ崎線，車扱い貨物営業廃止（4/1） ●竜ヶ崎線，ワンマンによる列車運転開始（8/1）
昭和59年 (1984)	●竜ヶ崎線，小荷物・手荷物営業廃止（2/1）

2 地域との連携

(1) 市事業との連携

… 市が実施する龍ヶ崎のシティプロモーション事業と連携し，市のPRや市街地活性化に貢献。

【ラッピング車両の運行】

平成26年（2014）3月から，市制施行60周年を記念して市のマスコットキャラクターを車体にデザインしたラッピング車両「まいりゅう号」が運行開始。

【ウォークコースの設定】※関鉄竜ヶ崎線120周年・JR龍ヶ崎市駅誕生記念事業「駅からウォーク てくてく巡ろう“龍ヶ崎”」と題し，竜ヶ崎駅を拠点として旧市内の神社・仏閣を巡る約5kmのウォークコースを設定（2020年10月10日～11月8日）。龍ヶ崎市・JR東日本水戸支社との共催事業。

(2) 地域産業との連携

… まちおこしの一環として、市を挙げて大々的に打ち出している「龍ヶ崎コロッケ」との連携事業を展開。

【コロッケトレインの運行】

平成28年（2016）10月に開催された「第4回全国コロッケフェスティバル in 龍ヶ崎」を盛り上げるべく、車内のつり革にコロッケをあしらい、大量のメッセージステッカーを貼った「コロッケトレイン」を運行し、マスコミ各社SNS等で話題を集めた。

【コロッケの割引券付き1日フリー乗車券の販売】

龍ヶ崎線の新たな魅力発見と沿線地域の活性化を目的として、①購入日当日の龍ヶ崎線乗り降り自由、②市内の加盟コロッケ販売店で使用できる150円の割引券付き、の乗車券「お出かけ割引竜鉄コロッケ☆フリーきっぷ」を販売（2020年9月19日～10月18日まで「秋のお出かけ！キャンペーン」として実施）。

(3) 学校等との連携 ※開業120周年記念プロジェクト

… 市内小学校3校および幼稚園1校の児童による龍ヶ崎線の塗り絵作品78点をラッピング車両・まいりゅう号の車内に展示した「ちびっ子アートトレイン」を運行（2020年8月14日～10月31日まで、作品は月ごとに入れ替え）。



▲ラッピング列車「まいりゅう号」



▲「龍ヶ崎市市制施行60周年記念」のロゴ



▲コロッケフェスティバル開催時の車内の様子



▲テレビでも紹介された「コロッケつり革」

資料 1

<参考データ>

●汽車の旅客荷物および賃銭（龍崎鉄道会社）【出典：龍ヶ崎市史 近現代資料編】

年 次		明治39年 (1906)	明治43年 (1910)	大正3年 (1914)
旅 客	乗 車	75,359人	99,043人	111,522人
	降 車	75,359人	99,043人	111,522人
手小荷物	出	8,984斤 (5,390.4kg)	16,786斤 (10,071.6kg)	19,955斤 (11,973kg)
	入	8,984斤	16,786斤	19,955斤
貨 物	出	1,851屯	1,235屯	13,034屯
	入	1,851屯	1,235屯	13,034屯
収入賃金	旅 客	4,262円	5,839円	9,200円
	手小荷物	21円	91円	92円
	貨物	1,382円	989円	1,596円
	計	5,665円	6,919円	10,888円

●近年の竜ヶ崎線の状況【参考：関東鉄道ホームページより】

年間輸送人員		876,401人
1日あたり乗降人員	竜ヶ崎駅	2,360人
	入地駅	66人
	佐貫駅	2,413人
	計	4,839人

※いずれも平成29年度実績値

資料 2

<参考写真>

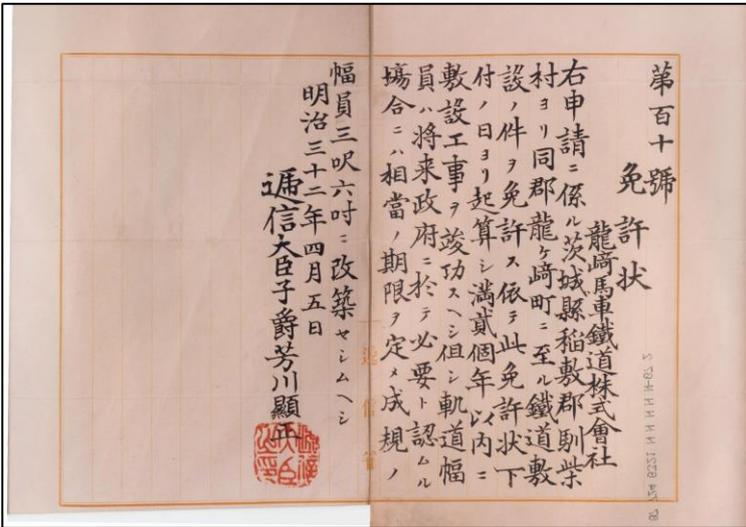
●開業当時の役員／免許状



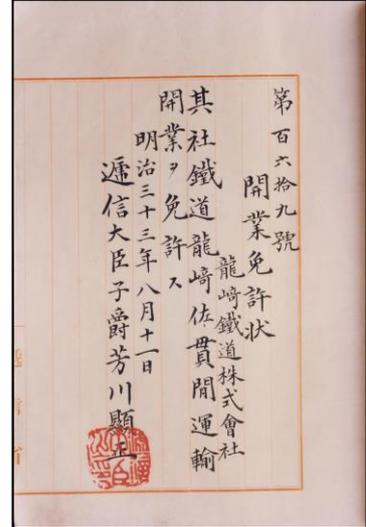
▲龍崎鉄道（株）初代社長 倉嶋松男



▲二代目社長 岡田竜三郎



▲鉄道敷設免許状（明治32年）



▲開業免許状（明治33年）

●竜ヶ崎駅



▲竜ヶ崎停車場前集合写真



▲農業祭当日の竜ヶ崎駅（昭和10年）



▲竜ヶ崎駅（昭和45年頃）



▲竜ヶ崎駅（昭和56年）



▲竜ヶ崎駅（現在）

●佐貫駅



▲佐貫駅前掃除する子ども達（昭和49年）

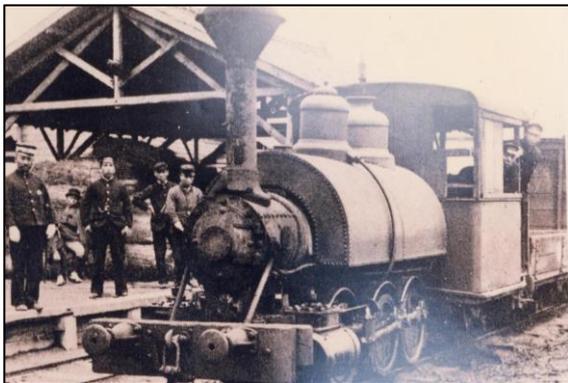


▲佐貫駅ホームに停車する竜鉄（昭和56年）



▲現在の佐貫駅ホームと竜鉄

●鉄道車両



▲アメリカ・ポールドウィン社製 1号機関車



▲ドイツ・クラウス社製 2号機関車



▲入地駅付近を走る4号機関車



▲5号機関車に乗って俳優と記念撮影



▲昭和初期から導入されたガソリン動力車



▲竜ヶ崎駅構内のキハ531形



▲佐貫駅付近を走るキハ532形



▲現行車両のキハ2000形

～参考文献～

- ◆ 『龍ヶ崎市史 近現代編』
（平成12年2月，編集：龍ヶ崎市史編さん委員会 発行：龍ヶ崎市教育委員会／財団法人龍ヶ崎市文化振興事業団）
- ◆ 『龍ヶ崎市史 近現代史料編』
（平成8年3月，編集：龍ヶ崎市史編さん委員会 発行：龍ヶ崎市教育委員会／財団法人龍ヶ崎市文化振興事業団）
- ◆ 『特別展 関東鉄道龍ヶ崎線の歴史』
（平成10年2月1日，編集発行：龍ヶ崎市歴史民俗資料館）
- ◆ 『写真集龍ヶ崎 ふるさとの今と昔』
（昭和56年10月25日，編集：竜ヶ崎写真集刊行委員会 発行：竜ヶ崎青年会議所）
- ◆ 『関東鉄道株式会社 70年史』
（平成5年3月，編集：関東鉄道株式会社社史編集室 発行：関東鉄道株式会社）
- ◆ 『図説 稲敷・北相馬の歴史』
（平成18年2月26日，監修：佐久間好雄 発行：株式会社郷土出版社）
- ◆ 関東鉄道株式会社ホームページ（<https://kantetsu.co.jp/ad/>）